著者紹介（執筆順）

■ 鈴木敦命（すずき・あつのぶ）

東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室准教授・卓越研究員（2018年度）。実験心理学を専門とし、人物認知や心のエイジングの研究を行っている。論文・著書に、「表情認知と体現的シミュレーション」（心理学評論, 57, pp. 5-23, 2014）、「顔認知と障害，加齢」（日本顔学会編『顔の百科事典』丸善出版, pp. 264-270, 2015）、“Persistent reliance on facial appearance among older adults when judging someone’s trustworthiness”（*Journals of Gerontology Series B: Psychological Sciences and Social Sciences,* 73, pp. 573-583, 2018）、“Faces tell everything in a just and biologically determined world: Lay theories behind face reading”（塚本早織、髙橋雄介との共著; *Social Psychological and Personality Science,* 10, pp. 62-72, 2019）など多数ある。

■ 宮崎由樹（みやざき・ゆうき）

福山大学人間文化学部准教授。専門は認知心理学。論文に、“The Sanitary-Mask Effect on Perceived Facial Attractiveness”（河原純一郎との共著; *Japanese Psychological Research,* 58-3, pp. 261-272, 2016）、「衛生マスクへの着香が花粉症の不快感低減に及ぼす効果とその時間的推移」（前澤知輝・松長芳織・若杉慶・柴田彰・河原純一郎との共著; 人間工学, 56-1, pp. 29-33, 2020）などがある。

■大江朋子（おおえ・ともこ）

帝京大学文学部心理学科・教授。温度を中心とする身体性の心理学，偏見やステレオタイプなどの社会的認知を専門としている。著書・論文に、「潜在的態度」(山口真美他編『心理学実験』遠見書房, pp. 199-214，2019)、「ステレオタイプと社会的アイデンティティ」(北村英哉・唐沢穣編『偏見や差別はなぜ起こる？ 心理メカニズムの解明と現象の分析』ちとせプレス, pp. 3-19, 2018)、「社会的認知」(外山みどり編『社会心理学：過去から未来へ』北大路書房, pp. 34-52, 2015)、“Perceived shared condemnation intensifies punitive moral emotions”（Naoki Konishi, Yosuke Otsubo他との共著: *Scientific Reports,* 7, Article number: 7289, 2017)、「身体と外界の相互作用から醸成される社会的認知」(実験社会心理学研究, 55-2, pp. 111-118, 2016）などがある。

■上田祥行（うえだ・よしゆき）

京都大学こころの未来研究センター・特定講師。注意や記憶、顔認識、情動処理を中心とした認知心理学・認知科学を専門としている。著書に、「文化は認識に影響するか―顔身体との兼ね合いで」（河野哲也他編『顔身体学ハンドブック』東京大学出版会、近刊予定）、「全体としてこちらのほうがよい―アンサンブル知覚」（三浦佳世・河原純一郎編著『美しさと魅力の心理』ミネルヴァ書房, pp. 14–15, 2019）、“Cultural psychology as a form of memory research”（共著; T. Tsukiura & S. Umeda（eds.）, *Memory in a Social Context: Brain, Mind, and Society,* Springer Japan, pp. 281–295, 2017）、代表的な論文に、“Beyond Personality Traits: Which facial expression imply dominance in two-person interaction scenes?”（共著; *Emotion,* 18, pp. 872–885, 2018）、“Cultural differences in visual search for geometric figures”（共著; *Cognitive Science,* 42, pp. 286–310, 2018）、“Spontaneous eye blinks during creative task correlate with divergent processing”（共著; *Psychological Research,* 80, pp. 652–659, 2016）、「顔の認識―個別から関係性の中へ」（共著; 日本児童研究所監修『児童心理学の進歩（2016年版）』金子書房, pp. 2–26, 2016）など多数ある。

【編集後記】

東京大学ヒューマニティーズセンター（HMC）より、Humanities Center Booklet, Vol. 7をお届けします。

本号は、2020年7月31日にオンラインで行われたHMCオープンセミナー第25回「顔の実験心理学（2）— 顔では決まらない顔の印象」の講演録です。人の顔の印象は顔の外見的特徴だけに依存しているわけではないという仮説に対して、衛生マスク、環境温度、二者関係という側面から論証する興味深い内容となっています。

セミナー開催ならびにブックレット作成に当たって、コーディネーターの鈴木敦命氏（東京大学人文社会系研究科・准教授）をはじめ、宮崎由樹氏（福山大学・准教授）、大江朋子氏（帝京大学・教授）、上田祥行氏（京都大学・特定講師）には、企画段階からご尽力いただきました。また、本号の文字起しに当たり、速記センターつくば様にご尽力いただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

HMC事務局（川村朋貴）

Humanities Center Booklet Vol. 7

「顔の実験心理学（2）— 顔では決まらない顔の印象」

鈴木敦命，宮崎由樹，大江朋子，上田祥行

2021年2月5日発行

編集発行者　東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター

東京都文京区本郷7-3-1東京大学附属図書館4階

ISSN　2434-9852

印刷者　株式会社サンワ

フォーマットデザイン　株式会社編集家族

©東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター